ブルーマウンテンズ姉妹都市派遣　2024 年度報告書

兵庫県立北摂三田高校２年　篠木鈴乃

○はじめに

三田市国際交流協会から派遣生として、7 月 24 日（水）～8 月 8 日（木）の 2 週間、貴重な体験をさせていただきました。様々な場面でオーストラリアと日本との違いを発見し、多くの方々の温かさに触れることができ、行くことができて本当に良かったなと思っています。その内容を以下の順序で報告します。

・私のホストファミリー

・私の通った学校

・オーストラリアの自然

・ネイティブがよく使っていた言葉 TOP 5

・アンバサダーとして

・2 週間のスケジュール

○私のホストファミリー

私は Springwood という町で T-bone ファミリーと一緒に 2 週間暮らしました。優しくて寛大なご両親のもと、のびのびと元気に過ごす 5 人きょうだいとワンちゃんねこちゃんの家族が私はすぐに大好きになりました。とても賑やかで、いつも笑いと愛に溢れていました。ご両親は私が分からない顔をしているとゆっくり簡単に説明してくれたり、オーストラリアの自然や文化や歴史について教えてくれたりしました。兄弟姉妹たちは好奇心に溢れていて元気いっぱいで、大笑いすることばかりでした。私のホストシスターである長女の Georgia さん（写真左から二番目）は年下なのにとてもしっかりしていて、機転を利かせて支えてくれました。ずっと一緒にいていろいろな一面を知れるところが、ホストシスターであるメリットだと思いました。私はファミリーが飼っていた犬ともとても仲良くなり、いつも癒され、Tabone 家に帰るのが楽しみでした。

ファミリーは日本や私にとても関心を持ってくれ、いつも私の選択を尊重して肯定してくれました。私の拙い英語にも真剣に耳を傾けてくれて熱いリアクションをくれました。

このファミリーと過ごして気づいた日本の家庭との違いを七つ紹介します。

一つ目は衛生面についてです。家の中が土足でも床に寝転んだり裸足で歩いたりする。帰ってきても手を洗わない。シャワーは毎日しない。他にも、お皿洗いや料理、お洗濯などのときに、これは衛生面が徹底されているのだろうかと不安に思うことが何度もありました。だけど、一週間も経てば全く気にしなくなりました。日本人が不潔だと言いそうなことでも、ファミリーは汚いなどと思っていないし、そこでの暮らし方なのだと、私もワイルドさを楽しむようになりました。

二つ目はシャワーについてです。お風呂には浴槽はありましたがお湯につかる習慣はなく、シャワーだけするのが普通でした。ファミリーの真似をして、私もシャワーには毎日入りませんでした。一番おもしろかった違いが、私はシャワーをしているとき水を出したり止めたりしますが、オーストラリアの人は終始水を出しっぱなしにするということです。ファミリーはこれを知ると「寒くないの！？」ととても驚いていました。

三つ目は家事についてです。オーストラリアでは子供もよく家事をします。Tabone ファミリーでも、五歳の末っ子にまで役割が振られていて、みんなで楽しく食後の片づけをすることがよくありました。学校の友達も料理が得意な子が多かったです。 私は普段あまり家事を手伝いませんが 、Georgia さんを見習って一緒にクッキングや洗濯をしたことで、家事への抵抗がなくなり、むしろ楽しいと思えるようになりました。

四つ目は家についてです。オーストラリアの家は一階建てが多く、どの家も植物でいっぱいの大きなお庭を持っていて、家と家との間隔が広かったです。Tabone ファミリーのお庭は特に広く、ホストファザーがお庭で何十種類もの野菜を育ててい

ました。鶏やうずらもいて、採れたてのたまごやお野菜を食べる機会が多かったです。

五つ目は日曜礼拝です。日曜日の朝は毎週必ず家族みんなで教会に行き、一時間ほどの「mass（ミサ)」がありました。

六つ目は生ごみについてです。オーストラリアでは生ごみは肥料として収集されていて、家の前には燃えるゴミ、プラスチック、生ごみの三種類の指定された大きなごみ箱が置いてあります。Tabone ファミリーでは、生ごみは鶏のエサとなり、それを食べた鶏がまたたまごを産むので、食べ残しは大歓迎だと言われました。

七つ目は誕生日についてです。オーストラリアの誕生日パーティーは盛大でした。大勢の親戚がコスプレをしておうちに集まります。私もきょうだいとデコレーションケーキをつくったり、家中を風船やテープで飾ったりしました。プレゼントもたくさんあってすごく豪華でした。これは Tabone ファミリーのルールだと思いますが、誕生日の夕食後は家族が順番に、誕生日の人に好きなところを伝えます。そして手の込んだバースデーカードを手渡します。このような場面でも愛を大切にする心が感じられて、とても素敵だと思いました。

観光旅行と比べて、ホームステイは現地の家庭の中に入ることで、そこでの生き方や価値観を身をもって体感できますし、お互いの国のことを細かく聞くことができます。私はこのホームステイが財産になりました。

Tabone ファミリーは別れが迫ってくると、「いつでも帰ってきていい」「もう家族の一員だ」と言ってくれました。私は Tabone ファミリーに出会えたことがこの 2 週間で何よりも一番の幸運だと思っています。さらに成長した姿でいつかまた会いに行きたいです。

＜ホストファミリーと一緒にした楽しかった体験＞

・自家製ピザ窯でピザパーティー　・ドレスでおめかしてティーパーティー

・部屋でカラオケ　・映画鑑賞　　・お寿司

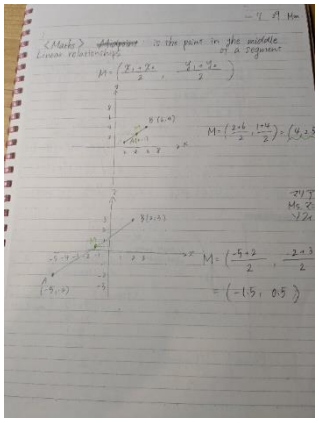
・星空の下でお庭キャンプファイヤー　　・ビーチでクリケット　　など…

○私の通った学校

私は Penrith という街にある 、幼稚園から高校まで一貫の Montgrove Catholic College に通いました。姉妹 3 人と一緒に、車とバス、電車を乗り継いで片道 1 時間ほどかけて通学しました。8:30 から始まり、授業は毎日 45× 6 コマで、その間に 2 回のお昼休みを挟みます。一つ目の「recess」という 15 分の小さなお昼休みが 2 時間目の後にあります。4 時間目の後に 45 分間の「lunch time」があり、2 回に分けて中庭の芝生に座ってお昼ごはんを食べたり雑談をしたりして過ごします。

小中高は女子校で、私は長女の Georgia さんの高校一年生に当たるクラスに参加しました。クラスメイトはみんなとても明るく、面白いことが大好きな女の子たちで、私をすぐに受け入れてくれました。お昼休みにはバレーボールやバスケットボール、バドミントンなどをして遊び、とても楽しかったです。

日本の大学のように、自分で取りたい教科を選択する形がとられていました。宗教やドラマ、哲学など、私の学校にはない教科もたくさんありました。特にドラマの授業では、グループに分かれて脚本や演出から自分達で考えて作っていました。みんなとても上手で、恥ずかしがらずに堂々と演技していて、とても楽しそうでした。



授業では教科書を使うことはあまりなく、先生は動画を見せたりワークをさせたりすることが多かったです。なかなか英語が聞き取れず話についていくことは難しかったので、数学のグラフの授業が理解できたとき、とても嬉しかったです。数学は世界共通だなと思いました。理科の実験も言葉以外で理解ができる学習だと思いました。

どの授業もディープシンキングが軸になっていると感じました。特に哲学の時間には、映画マトリックスを通して、イリュージョンと現実のどちらがより自由なのか、人間の苦しみを完全に排除することは可能なのかといったことを考えました。地理の時間には環境について深く考え、自然豊かなオーストラリアらしいと感じました。どの子も環境問題に関する知識が豊富でした。

授業中には生徒同士、あるいは先生と生徒がこれでもかというくらいコミュニケーションをとります。真剣なディスカッションから雑談まで、話し声が絶えないという印象です。他にも、授業中に席を立ったりお菓子を食べたり、床や机の上に座ったり、生徒も先生も学校を休んだり遅れて来たりすることも普通であり、受け入れられていたことに驚きました。それでも、私が日本に比べてとても自由で楽しそうな学校だと感想を述べると、「オーストラリアでも特に厳しい学校のひとつなのに」と言って驚かれました。

学校の中は多様性で溢れていました。オーストラリアは様々な文化が混在していると聞いていましたが、その通りでした。多様な肌の色、髪の色、目の色を持った子たちが仲良く笑い合っていました。バックグラウンドも本当に幅広く、自己紹介のときにはフィリピン、メキシコ、バングラデシュ、フィジー、クロアチア、エジプト…などなど、言語や地域を問わず様々な国の名前が上がりました。私にはこの多様性がとても心地よく感じられました。ひとりひとり「かわいさ」の基準も違い、「自分らしさ」に迷いが無い感じがしたところが、大人っぽくもありとてもかっこよく、私も堂々としていられたと思います。

廊下を歩いていると、たくさんの生徒が挨拶をしてくれました。それまで会ったことも話したこともない、ただすれ違っただけなのに、目を合わせて手を振ってくれたり声をかけたりしてくれる子が本当に多くて、純粋に感動したし、とても嬉しかったです。お国柄なのかわかりませんが、日本ではなかなかないなと思い、これを当たり前にできるというのが素晴らしいと思いました。

学校全体を通して、すごく「自由」で「個性」が溢れている印象を受けました。決まりの中に収められたり単に知識量を増やしたりするのではなく、ひとりひとりの考えが尊重され、個性をさらに伸ばしていこうとしているのだなと思いました。

○オーストラリアの自然

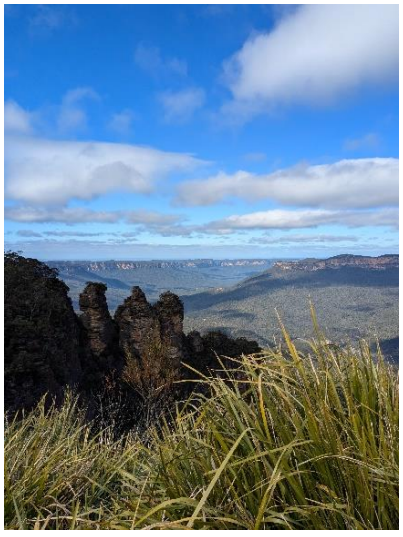
＜シドニー＞

最初の週末にホストファミリーとシドニー観光に行きました。歴史のある教会やアートギャラリー、オペラハウスなどを訪れました。どれもとて

も美しかったです。ですが、もっと驚いたのは、シドニーのような大都会にも自然が溢れていることでした。街の中には大きな公園がたくさんあり、きちんと手入れされた木々やお花があちこちに見られました。ホストファミリーの家がある Springwood も自然の中におうちが建っているという感じでしたが、シドニーでも自然と人が共存していると感じられました。

＜ブルーマウンテンズ＞

私は滞在中、カトゥーンバという町にあるブルーマウンテンズ国立公園を二度訪れました。景色はとにかく壮大でした。終わりの見えない空と山々が圧巻です。自然に包まれるような感覚で、地球の広さと自然の偉大さを肌で感じました。ブルーマウンテンズの名前の由来は、ユーカリの樹が放出する油分によって山が青く見えることだと聞いていましたが、実際遠くの山々は青く見えました。エコーポイントからスリーシスターズも見ることができました。二回目訪れたときには景色を見るだけでなく、ケーブルカーのようなアトラクションに乗ったり、山の中を歩いたりもしました。



＜ブッシュウォーキング＞

私はブッシュウォーキングが一番楽しかったです。ホストファミリーが私を家の近くの森に連れて行ってくれ、森でウォーキングをしました。森の木々はとても生き生きしていて、空気はとても澄んでいました。ファミリーは歩き慣れていて、森を知り尽くしていました。私に、お気に入りのスポットや植物の知識をたくさん教えてくれました。鳥や水の音に耳を澄ましたり、自然に手で触れたりする時間はとても私を癒してくれました。オーストラリアの国花である黄色い Wattle （左の写真の黄色いお花）を何度も見かけました。

最後の夜には、またブッシュウォーキングに行きました。真っ暗な森で、ファミリーはグローワームという光る虫を見せてくれました。岩肌一面にグローワームが光っていて、星空を見ているようでした。とてもロマンチックな光景でした。

＜星空＞

本物の星空も本当に綺麗でした。姉妹と、毛布をもって屋根に登って星空を見たことが忘れられません。とても寒かったですが、寒さを忘れるくらいの満天の星空で、流れ星や天の川、日本では見られない南十字星をはっきりと見ることができました。私はオーストラリアで星を見ることをとても楽しみにしていたので、夢が叶って本当に嬉しかったです。

他にも、ビーチに行ったり庭でキャンプファイヤーをしたりと自然と関わる体験をたくさんしました。素晴らしい自然がこんなにも身近にあって、自然と隣り合わせで暮らしているのがとても羨ましく、だからこそここの人たちはみんなリラックスしていてのびのびしているのかなと思いました。

○ネイティブがよく使っていた言葉 TOP

オーストラリアで過ごす中でよく耳にした言葉、フレーズを頻度で順位をつけて紹介します。

第 5 位　(IT) DOESN'T MATTER

意味：関係ないよ、気にしなくていいよ

第 4 位　ARE YOU SURE...?

意味：ほんとに...？

私がお皿洗いをやるよと申し出たときや、疲れたでしょ？と聞かれて疲れてないよ！と答えたとき、「ほんとにいいの？」「ほんとに大丈夫？」といったニュアンスでこの言葉が返ってきました。相手が遠慮や我慢をしていないか、嘘を突いていないか確認する、といった使い方でした。

第 3 位　NOT REALLY

意味：それほどでもない

第 2 位　MAKE SENSE

意味：（1）理解する　（2）賢明である

（1）先生たちが生徒に授業内容を理解したか確認するとき、「Does it make sense?」と聞いていました。

（2）子供たちが少し下品なことで笑っていた時、ホストマザーが「It dosen't make sense.」と言っていました。しょーもないよ、お子様だよ、といったニュアンスです。

第 1 位　PRETTY

意味：すてき、美しい、素晴らしい

私はオーストラリアに行ってこの言葉が大好きになりました。オーストラリアの人はリアクションが豊かで、素直に称賛したり感動したりします。ポジティブで綺麗な言葉が飛び交うのがとても素敵な文化だと感じ、私もこれから大事にしようと思いました。そんな中で、この pretty という言葉は誉め言葉としていちばんよく使われていました。友達のお話やきょうだいの誕生日プレゼントに対して、あるいは綺麗な夕焼けを見て、などです。私は pretty という言葉にとても優しいエナジーを感じました。

ここに挙げた言葉以外にも、現地で体験として学べた言葉は、思い入れが生まれるし、これからも大事にしていこうと思います。

○アンバサダーとして

私は最後の登校日に、小学五年生に当たるクラスでプレゼンテーションをしました。そこで、私の通っている北摂三田高校やオーストラリアではあまり見られない放課後の部活動について紹介したり、三田の特産品である母子茶を振舞ったり、日本の遊びであるけん玉やこまを披露したりしました。特に、滞在中に気づいた日本とオーストラリアの違いを紹介したり簡単な日本語を教えたりしたときに、とても楽しんでもらえました。

渡航前から日本の文化について外国の方に紹介する練習をしましたし、滞在中も友達やファミリーに「日本ではこうだよ」と自分から話すことを意識しました。自分の国・日本を知るという点で、以前の自分より日本や三田に近づけたのではないかと少しうれしいです。このプログラムをきっかけに三田のことに興味を持て、プレゼンなどを通して自分の住んでいる場所を客観的に見ることができたのではないかと思います。

ですが、同時に自分が日本について理解不足だったということにも気がつきました。ホストファミリーや学校の友達は想像以上に日本に興味津々でした。たくさん質問をしてくれたのに、私が分からなかったことが多くあり、アンバサダーの役を十分に務められなかったというのが今回の反省点です。自分が普段からもっと日本のことについて関心を持ち、少しでも気になったことはどんどん調べて知識にしていくべきだと思ったし、調べすぎることはないなと痛感しました。

○2 週間のスケジュール

【7 月 24 日（水)】0 日目

伊丹空港から羽田空港を経由してシドニー国際空港へ計 15 時間ほどの移動でした。チェックインしてからは高校生ふたりだけなので初めは不安も感じましたが、いよいよオーストラリアに行くんだという興奮やわくわくが大きかったです。

【7 月 25 日（木)】1 日目

朝、シドニー空港で私たちを迎えに来てくれたブルーマウンテンズ市国際交流協会のジェーンさんとお会いできたとき、とても安堵しました。コリーンさんの車で、マクドナルドに寄った後、Geogia さんが通う学校に直接連れて行ってもらいそこで初めて Georgia さんと会いました。着いた途端、いきなり学校で野生のカンガルーを見てとても驚きました。

【7 月 26 日（金)】2 日目

この日は 5 歳の末っ子と 14 歳の次女のお誕生日だったので、バースデーソングで 1 日が始まりました。昨日と今日の 2 日で 3 人がお誕生日を迎えるので、この 2 日間を Tabone 家では BIRTHDAY BONANZA と称していました。

学校では、演劇の発表に使う小道具や衣装を古着屋に買いに行く遠足のようなものに参加しました。写真のようにド派手な衣装を買う子がたくさんいました。歩くのは疲れたけど、街は新鮮でおもしろかったです。夜には姉妹 3 人と一緒にベッドでシンデレラを観ましたが、ペットの猫が亡くなるという悲しい出来事もありました。

【7 月 27 日（土)】3 日目

この日は家族でシドニーに行き、セントメアリー大聖堂やアートギャラリー、オペラハウスなどを訪れました。200 年近くの歴史があるセントメアリー大聖堂はステンドグラスがとても美しかったです。オペラハウスは思ったより大きく、曲線が綺麗でした。ウェディングシーズンらしく、街中で結婚式に何度も遭遇しました。帰る前に、サーティワンのアイスクリームを食べました。オーストラリアでもサーティワンのアイスはとても人気でした。

【7 月 28 日（日)】4 日目

朝に日曜礼拝に行った帰りにマーケットに寄りました。地域の野菜や特大のパイ、手作りアクセサリーなどが売られていて、見ているだけでも楽しかったです。

その後近くの森に入り、家族とブッシュウォーキングをしたのですが、先述したように、本当におもしろかったです！ペットの犬がリードを外してもらってとても楽

しそうに森中を駆け回っていて、私も犬になりたいと思いました。途中で、末っ子のお気に入りスポットである恐竜のような岩（写真左）に登りました。ホストファザーはたわしのような実がなる木や絶滅が懸念されている花、楽な坂道の登り方など、森についてたくさん教えてくれました。大きな樹や岩からは長い年月が感じられました。

午後には「パイレーツ」をテーマに誕生日パーティーが開かれ、親戚たちが思い思いに海賊になりきっておうちに来てくれました。みんなでチャンバラ合戦をしたり、ソーセージを食べたり、大人たちは思い出話をしたりと、とても愉快でにぎやかな時間でした。

【7 月 29 日（月)】5 日目

放課後には前日のブッシュウォーキングがとても楽しかったので、もう一度森に入りました。Geogia さんたちは子供の頃一日中森で遊んでいたと聞き、とても羨ましく思いました。日本人はやまびこで遊ぶ際に「ヤッホー」と言いますが、Georgia さんがオーストラリアでは「クーーウィ！」と叫ぶのだと教えてくれ、実際に見せてくれましたが、普段から想像もつかないほど大きな声を出していてさすがだなと思いました。

【7 月 30 日（火)】6 日目

もう一人の派遣生である谷川さんとそのホストシスターである Zariya さん、そして私と Georgia さんの四人で市役所へ表敬訪問に行きました。その後、ブルーマウンテンズ国立公園を訪れました。ずっと話で聞いていたスリーシスターズを近くで見られたときはとても嬉しかったです。景色は本当に雄大で圧巻で、大昔にタイムスリップしたような感覚に終始興奮が収まりませんでした。崖のふちで写真を撮ったときは、落ちたらひとたまりもないなととてもドキドキしました。

お昼ご飯にはパン屋さんでカンガルーパイにチャレンジしました。食感は牛肉とあまり変わらず、おいしかったです。　この日、1 日目以来会えていなかった谷川さんと、お互いの出来事を話したり、情報交換したりすることができたことで、気持ちの面でとても心強くなったし、頑張ろうという気合を再び入れなおすことができて本当によかったです。

夕方には家の近くの図書館に行きました。そこで、私が昨年度北摂三田高校で半年間クラスメイトとして過ごしたセントコロンバス高校の女の子とたまたまばったりと出会いました。久しぶりに会えたことと、今度はオーストラリアの地で再会できたことがとても嬉しかったです。外国に友達がいるということをとても嬉しく感じる出来事でした。

【8 月 1 日（木)】8 日目

数学の時間には、突如数学大会が開かれました。それは、問題を解くと次に行くべき場所（体育館や教室など）が示されるので、そこでまた新たな問題を解くというもので、みんなで学校中を走り回りました。力を合わせてゴールを目指すことで、より友達との距離が近くなったと感じました。日本と違ってこのようなイベントがほぼ毎日のようにありました。

【8 月 2 日（金)】9 日目

読書の授業中に、特別にオーストラリアの伝統のお菓子であるパブロバを作りました。授業中にこんなことをしてもいいのかと驚きましたが、パブロバはとっても甘くておいしかったです。私はパッションフルーツを始めて食べましたが、オーストラリアでは有名なようです。

このころには、オーストラリアにいるのが当たりまえのように感じられました。でも日本が少し恋しくて、帰りたいような、帰りたくないような気持ちでした。

【8 月 3 日（土)】10 日目

この日はプライベートとして Zariya さんたちともう一度ブルーマウンテンズ国立公園に行きました。ブルーマウンテンズの上空を飛ぶケーブルカーや急角度で落ちていくアトラクションなどに乗り、鳥の気分を味わいました。午後にはおうちでティーパーティーをしたり、庭でキャンプファイヤーをしたりして、穏やかで心地の良い時間を過ごしました。休日をこんなに密に過ごせるのが純粋に嬉しかったし、家族が日々の暮らしを楽しんでいる雰囲気を感じ取りました。

【8 月 6 日（火)】13 日目

最後の登校日でした。小学生のクラスでプレゼンテーションをしました。私が緊張しているのを知り、友達が授業を抜け出して見に来てくれ、熱いリアクションで支えてくれました。

昼休みにはクラスのみんながお別れパーティーを開いてくれ、おかしがたくさん振舞われました。そして、たくさんの友達が私にプレゼントをくれました。手作りのフォトアルバムやカンガルーのお人形など、ここでもクリエイティブさが見受けられました。たくさんの直筆のお手紙や寄せ書き（写真）はどれも心温まるものでした。

大きくなってオーストラリアには戻って来れても、この教室やこのクラスには二度と戻ってこられないのだと実感し、最後学校を出るとき、友達と別れるのが本当に惜しかったです。

夜にはおうちの庭にある手作りピザ窯でピザパーティーをしました。ホストファザーが、オーストラリアでは生地を作るとき生地を投げて広げるのだと見せてくれました。ホストファミ

リーが私にお手紙やプレゼントをくれたり、「あなたのこんなところが大好きだ」と言ってくれて、嬉しいと同時に、会えなくなることがつらく感じられました。

この一日は、たくさんの人からの真心を一番たくさん受け取れた日で、2 週間で最高の日となりました。

【8 月 7 日（水)】14 日目

早朝 3 時にホストファミリーの家を出発し、ジェーンさんに空港まで連れて行っていただきました。シドニーから羽田までの間、機内で読んでねといただいたホストファミリーからのお手紙を読み、涙が止まりませんでした。

羽田から伊丹への便が欠航となり、羽田空港で一泊することになりました。大変でしたが、自分たちで寝床を探したり手続きをしたりしたことが貴重な経験になったし、なかなかできない体験になったと思っています。翌日は新幹線に乗って、無事に三田に帰りました。

○おわりに

英語の面では、分かってはいたけれどネイティブのスピードの速さに圧倒され、なかなか聞き取ることができませんでした。それが悔しかったし、せっかく話してくれているのに申し訳ないなという気持ちでした。だけど、母国語ではない英語をひたすら浴びることで、耳が少し強くなったと思うし、英語の環境に慣れるきっかけになりました。そういった意味で、先生や友達と離れて日本人と会えず、ひとりでどうにかするしかないという状況に身を置けるこのプログラムがとてもいいなと思いました。

オーストラリアの人はとても温かくてフレンドリーでよく笑い、ロマンチックで優しい人たちでした。そしてとてもクリエイティブで、豊かな感性が生活の端々に見て取れました。私はオーストラリアののびのびとした空気が大好きです。

百聞は一見に如かずという言葉の意味がとてもよく分かった 2 週間でした。行ってみないと分からないことばかりで、聞くのと見るのでは大違いだと思いました。住み慣れた土地を離れ知らない世界に飛び込むことは、人を成長させてくれると思いました。オーストラリアに行けたからこそ知れた言葉や場所があって、会えた人たちがいて、感じられた気持ちがあったと思います。オーストラリアでの思い出を忘れないようにして、ずっと大事にしていきたいですし、自分自身の成長につなげていきたいです。

最後になりましたが、このような貴重な機会をくださった国際交流協会の皆様とお世話になったすべての方に心から感謝いたします。

これからもたくさんの高校生にこのプログラムを通して素晴らしい体験をしてもらえたら嬉しいです。